

弘前大学医学部附属病院で診療を受けられる皆様へ

本院では、下記の研究を実施しておりますのでお知らせいたします。

本研究の対象者に該当する可能性のある方で、情報を研究目的に利用されることを希望されない患者さんもしくは患者さんの代理人の方は、下記の連絡先までお申し出ください。

1. 研究課題名	病的内陥鼓膜(鼓膜アテレクターシスおよび癒着性中耳炎)に対する経外耳道鼓室換気チューブ挿入術および自己通気療法の効果			
2. 対象患者	2013年3月1日から2020年2月29日に癒着性中耳炎および鼓膜アテレクターシスと診断され、経外耳道鼓室換気チューブ挿入術および自己通気療法にて治療を受けられた患者様			
3. 対象となる期間	2013年 3月 1日 ~ 2020年 2月 29日			
4. 実施診療科等	耳鼻咽喉科			
5. 研究責任者	氏名	佐々木亮	所属	耳鼻咽喉科学講座
6. 共同研究機関 (共同研究機関研究責任者)	なし			
7. 研究の意義	<p>病的に内陥した鼓膜は中耳の内壁や耳小骨に接し(鼓膜アテレクターシスの状態)し、進行すると癒着してしまいます(癒着性中耳炎の状態)。このような病的内陥鼓膜に対して、しばしば鼓膜チューブ挿入術が必要となります。しかし鼓膜チューブの挿入により鼓膜に穴が残ったり凹んでしまうなどの合併症が生じることがあります。このような合併症を防ぐための手段として経外耳道鼓室換気チューブ挿入術という方法を用いていますが、この方法は先に述べた合併症を防ぐことができ、長期的な予後を改善させることができる可能性があると思われます。従来の鼓膜チューブ挿入術とこの経外耳道鼓室換気チューブ挿入術を長期的に比較した研究はほとんどありません。</p> <p>また、それとは別に、特にお子さんでは積極的な手術治療はためらわれることもあります。自己通気療法は自宅において鼻で風船を膨らませることにより耳管通気(耳抜き)が可能で、通院も不要であり、お子さんでも可能であるという治療法です。この自己通気療法を行うことにより手術をしなくてもよくなるかどうかということを長期的に見る必要があります。</p>			
8. 研究の目的	病的内陥鼓膜(鼓膜アテレクターシスおよび癒着性中耳炎)への経外耳道鼓室換気チューブ挿入術および自己通気療法の長期的な臨床効果を見ることを目的としています。			
9. 研究の方法 (使用・提供する資料等および外部に提供する場合があります)	対象となる患者様の診療記録を振り返り、年齢、性別、治療前後の鼓膜や聴力など、さらに手術を行っている場合には手術手技、チューブが入っていた期間などを検討します。 外部への資料提供はありません。			
10. 個人情報の保護	本研究の実施に係る診療記録は研究対象者識別番号を用いて個人情報(氏名・住所など)を含まない形で調査を行います。 対象者の方より拒否の申し出が合った場合は、研究対象から除外しデータを削除致します。ただし既に匿名化のうえ解析済みの場合や、研究成果公表済みの場合はデータを修正することはできませんのでご了承ください。			
11. 利益相反に関する状況	本課題の研究代表者および共同研究者は資金や便宜の提供は受けていませんので利害の衝突は起こりません。なお、この研究の利害関係については、弘前大学臨床研究利益相反マネジメント委員会へ届出ております。			
12. 連絡先	弘前大学大学院医学研究科 耳鼻咽喉科学講座 佐々木亮			
	電話	0172-39-5099	FAX	0172-39-5100